

邪馬台国 [瑞穂の嚴之國王朝・天(嚴)王朝・日本朝]、南九州**天之国・高天系** [日隈・日前・和] の対立

邪馬台(やまと)国

三輪氏、豊葦原水穗國らが連合し、豊受皇太神を天照大神に擁立
皇太神がオロチ嚴之國王朝再現

火明饒速日が倭奴國王朝再現
ヒミコが倭奴國王朝再現

神武が倭奴國王朝再興

大倭
瑞穂の嚴之國王朝

+ 大倭(おおやまと)国

+ 豊國+葦原中つ国

+ 大日本国(大倭国)

物部氏

和と大倭国が樹立

大倭
水天神天照大神/饒速日(初代垂仁)/天火明(二代垂仁)

天(嚴)之國(倭國)王朝

日本(やまと)王朝

景行・仲哀の熊襲征伐

301年神武即位

檜原宮

乱 大国 倭
180年代中頃 210年代前半
水天神天照大神/饒速日(初代垂仁)/天火明(二代垂仁)

倭女王 ヒノコ(日神) :
纏向上之宮 火火出見
火明饒速日(三代垂仁)
纏向珠城宮

彦火明
2 豊鍬入姫
3/4 神功5倭(迹跡)姫 (3倭迹跡日百襲姫)

和と大倭国が樹立
301年神武即位
檜原宮

倭奴(ヤマト)国王朝 [倭國(高天)+豊葦原中つ国+大倭國+日隈]

伊弉諾の南遷
天孫饒速日・日神の大倭遷座

彦火明
海幸彦の大倭降臨
火火出見(山幸彦の日向天降り)

神武(磐余彦)東征
磐余彦

天之国・高天 → 日隈 → 日前(投馬國、狗奴國) → 和国

素戔鳴豐葦原中つ国
建直し失敗。大己貴豊葦原中つ国再建→天神の御子に国譲り後、共に大倭に移る

山幸彦・海幸彦の争い

日向
天之国・高天
南九州
180年代後半
220年代前半
250年代
280年代

日神

火火出見

磐余彦

[都]
天宮高千穂宮
笠沙宮(加世田市)/西都(西都市)

/高城宮・川内宮(川内市)

/高千穂宮(霧島市)

高千穂宮(宮崎市)

本書の王系譜4

◇大倭(おおやまと)国

／大日本(おおやまと)国

和国と共に大和朝廷樹立

孝安 — 孝靈

彦狭嶋

秀昭

開化 — 御間城入彦五十瓊殖(崇神)

彦太忍信・大足彦(景行、南海道・東山道都督、倭王) — 竹内宿禰

倭迹迹日百裏姫(倭迹迹姫襲名、五代倭女王)

吉備津彦(五十狭芹彦) — 西道(山陽道)將軍

稚武彦

稻日大郎姫

日本武

◇邪馬台(やまと)国

朝廷の軍事筆頭職・物部氏

嚴之國(やまと)朝

天(嚴)之國(やまと)朝

(倭国)／日本(やまと)王朝

(倭国)／日本(やまと)王朝

饒速日

(火天神天鹿児山の長子、初代垂仁)

豊城入彦(東山道都督)

彦狭嶋(倭家入籍)

味間見(物部氏遠祖)

仲哀 — 誉田別(氣比大神)

狭穂姫

誉津別(火火出見)

彦火明(火折)

仲哀 — 誉田別(氣比大神)

天香山

尾張家遠祖

天香語山(天鹿児山襲名、尾張氏の祖、東海道都督、高倉下)

天照國照彦火明饒速日(現人神の天神)

可美真手(味間見襲名) → 物部氏の祖

彦火明(二代垂仁)

彦火明(三代垂仁、日本大物主大神)

大田田根子 → 神君・鴨君の祖

彦火明

豊城入彦(東山道都督)

彦狭嶋(倭家入籍)

味間見(物部氏遠祖)

日葉酢姫ら五姉妹

火明饒速日(現人神の天神)

彦火明(火折)

仲哀 — 誉田別(氣比大神)

天香山

尾張家遠祖

天香語山(天鹿児山襲名、尾張氏の祖、東海道都督、高倉下)

天照國照彦火明饒速日(現人神の天神)

可美真手(味間見襲名) → 物部氏の祖

火瓊杵

火火出見(山幸彦)

磐余彦(日本武)

火折 ↓ 誉津別

神功

八幡(応神)

(四代倭女王、仲哀皇后)

火照(海幸彦) ↓ 火明饒速日

火スセリ(海幸彦襲名) ↓ 吾田隼人らの祖

本書の王系譜

「大日本國の系譜」

綏靖 —— ○ —— ○ —— ○ —— 孝安

「邪馬台国の系譜」

吉備津彦 —— 姥姫 (天火明の児、倭迹迹姫、五代女王)

孝元 —— 開化

彦狭嶋 —— 彦太忍信・大足彦 (景行) —— 竹内宿禰
吉備津彦 —— 姥姫 (天火明の児、倭迹迹姫、五代女王)
孝元 —— 開化
倭迹迹日百襲姫 (倭迹迹姫、三代女王)
倭武彦 —— 稲日大郎姫
可美真手 (物部氏の祖)
天香語山 (高倉下)

倭彦 —— 尾張連等が遠祖

稻日大郎姫

日本武

初代垂仁 (饒速日)

三代垂仁 (火明饒速日)

天道姫

可美真手 (物部氏の祖)

日本武

山王、牛頭天王、大穴持、大国主、

猿田彦

天照皇太神、月読、

日子坐王

倭彦 (大倭家移籍)

彦湯産隅

日葉酢媛

大倭家移籍

景行

天香語山 (高倉下)

熊野櫛御氣野、

倭大物主、大蛇、豊受大神

豊受姫

彦湯産隅 (天火明)

狹穂彦

ら五姉妹

倭姫 (大倭家移籍)

倭姫

火火出見

豊受皇太神 (天照大神)

榜幡千千姫

一代垂仁 (天火明)

狭穂姫

譽津別

火火出見

高皇產靈

大日靈貴

彦湯產隅

豐城入彦・豊鉄入姫 (二代女王)

影姫

武内宿禰

倭女王

1ヒミコ (撞賢木巣之御魂天疎向津姫)

2豊鉄入姫

3/4神功

5倭 (迹迹) 姫

3倭迹迹日百襲姫

分身=稚日女 (稚產靈)

忍穗耳

彦湯產隅

豐城入彦・豊鉄入姫 (二代女王)

影姫

武内宿禰

向津姫

熊野クス日 (五皇子の一人、五十猛、天日槍) → 素戔嗚の養女

彦湯產隅

豐城入彦・豊鉄入姫 (二代女王)

影姫

武内宿禰

日神の天照大御神

分身=稚日女 (稚產靈)

高皇產靈の養女

彦湯產隅

豊城入彦・豊鉄入姫 (二代女王)

影姫

大倭豐秋津島姫

思兼

高皇產靈の養女

彦湯產隅

豊城入彦・豊鉄入姫 (二代女王)

影姫

高天系の系譜

大倭豐秋津島姫

万幡豊秋津姫

火瓊瓈杵

火照 (海幸彦、火明饒速日として大倭降臨)

火火出見 (山幸彦、天火明の児・誉津別)

大倭豐秋津島姫

思兼

木花開耶姫

火照 (海幸彦、火明饒速日として大倭降臨)

火折→大倭に降臨し誉津別と名のる

大倭豐秋津島姫

火瓈杵千千姫を襲名

火照 (海幸彦、火明饒速日として大倭降臨)

火折→大倭に降臨し誉津別と名のる

天照大神の養子

火斯セリ→海幸彦襲名

本書の王系譜「海部氏系図、尾張氏系譜、「記紀」系譜の合成系図】6

184年（大乱勃発）

210～230年

250～270年

285～300年過ぎ

「けだし神の子か」「吾は、現人神の子なり」

【合成系図】

猿田彦（佐太彦）

（若くして他界）

日子坐王

天羽羽

火天神天鹿兒山

水天神天照大神

妃瀬織津姫（天照大神荒魂）→廣田神社祭神

※→実家丹後海部家に戻り豊受大神を祭祀

分身待遇 火天神妃壹受姫→天孫と共に降臨※

→丹生都比売神社祭神

分身稚日女（豊受姫の母、稚産靈）→丹生都比売

日神→忍穗耳→火瓊瓊杵（天孫）

天照大御神

大倭（遷座）

伊弉諾

伊弉冉

倭女王

1ヒミコ

（撞賢木巖の御魂天疎向津姫）→2トヨ→3／4神功→5倭（迹迹）姫

2豊鍬入姫

3倭迹日百襲姫

4神功→5倭（迹迹）姫

6

※水天神天照大神→マガダ国大王、山王、牛頭天王、神皇產靈、大穴持、佐太太神、大国主、月読命、熊野櫛御気野、御饌津神、豐受（天照）皇太神、天御中主、大蛇、天叢雲、倭大物主、所造天下大穴持、豐受大神、熊野権現

大日靈貴 分身瀬織津姫（撞賢木巖の御魂天疎向津媛、

火折→火火出見（山幸彦）→○→磐余彦（神武）→八幡

大和朝廷の開祖

氣比大神と名を交換

始馴天下天皇

誓田別と語る→応神

彦湯産隅 日葉酢姫ら五姉妹

遠津年魚眼妙媛？

彦火明、一代垂仁

大足彦（大倭家移籍、彦太忍信襲名、景行）

影姫

武内宿禰

稻日大郎姫

日本武

日本武

倭姫（大倭家移籍、五代女王）

豊城入彦（豊國移籍）→彦狭嶋（大倭家移籍）

豊鍬入姫（豊國移籍、二代女王トヨ）

可美真手（味間見襲名→物部氏の祖）

仲哀

氣比大神（誉田別）

天香山（鹿兒山襲名、尾張氏遠祖）→神功（氣長足姫、四代女王）

天香語山（尾張氏の祖）→天村雲

三炊屋姫（御炊屋姫襲名）

天香山（尾張氏の祖）→天村雲

高倉下

天叢雲（天叢雲襲名）

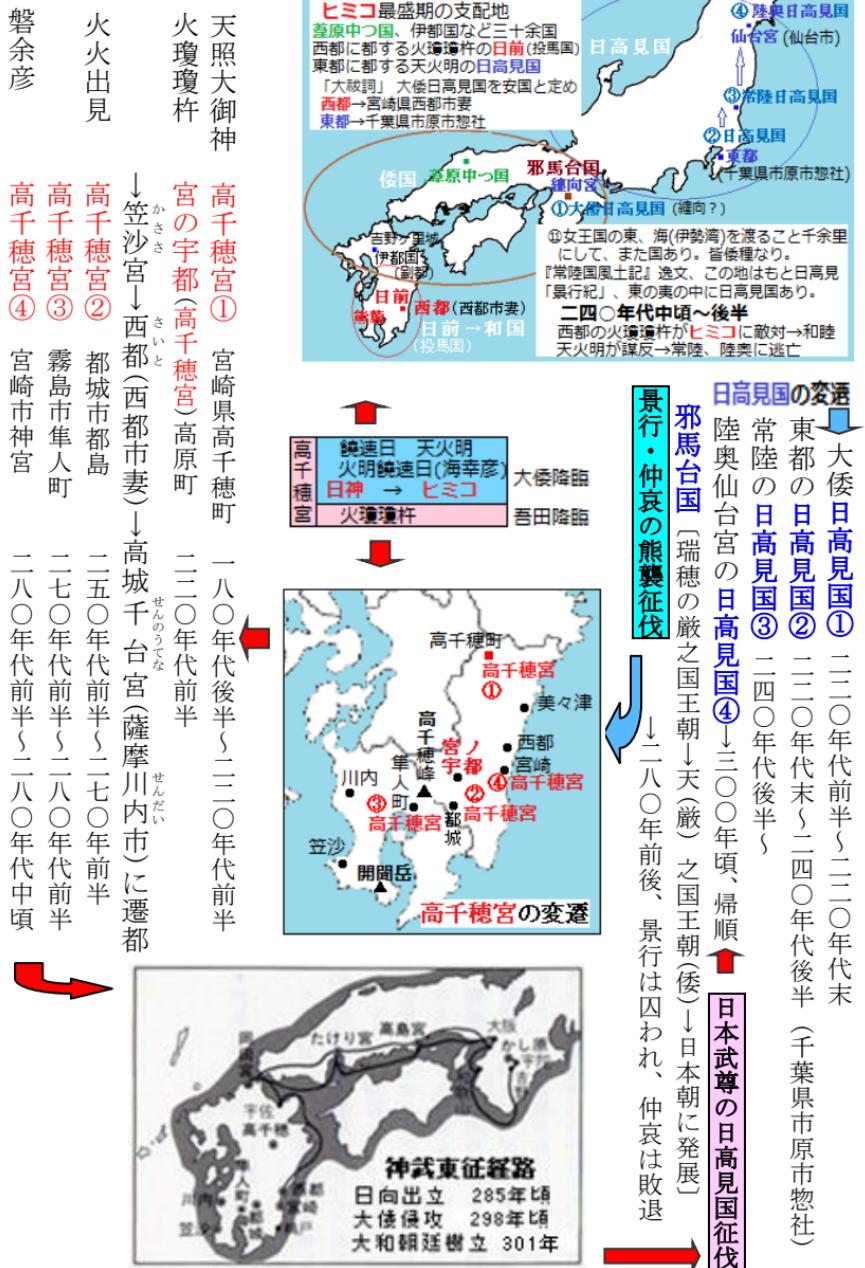
活玉依比売

才才夕タナベコ

神の子

神功

八幡



倭の女王ヒミコの一生

倭奴国(倭+豊葦原中つ国) 王朝六代女系天神、天之尾羽張神の時代 (一六〇年前後～一八〇年代前半)

1 倭奴国 (倭+豊葦原中つ国)

一六五年頃、六代女系天神の宗女として怡土の天宮(天上の都)で誕生→向津姫、天之国の若日女

※豊受(天照)皇太神(熊野櫛御気野、出雲では山王、牛頭天王、大穴持、大国主)→「向津姫に婿入り」

婿入前の彼は、伊雜宮の巫女玉柱屋姫(瀬織津姫?)、尾張海部家の姫らを妃に娶り、天鹿兒山をこしらえた

一八〇年代中頃、三輪氏らと組んで謀反し、邪馬台国(瑞穂の巖之國)→ヒミコの天(巖)之國(倭)

↓火明饒速日(日本朝に発展)を興して天叢雲、天照大神、水天神、倭大物主、大蛇と語る→大乱に発展

※大乱時、天照大神妃で分身の瀬織津姫(天照大神荒魂)→広田国(西宮市)に布陣して合戦を采配

2 王朝瓦解後、高千穂郷に逃れた高天(日高十天之国、倭と語れず)期 (一八〇年代後半～二三〇年代前半)

天之国の天宮、高千穂宮では、天照大御神、日神(七代女系天神)【齡二十代前半で、日神に即位】

※稚産靈→日神分身の稚日女→丹生都比売、丹生都比売神社(和歌山県)祭神→伊射波神社(鳥羽市)祭神

3 天照大神、高皇產靈と称して高千穂宮に赴き、葦原中つ国平定→日神に大政奉還→高天との統一王朝、誓約

4 天(巖)之国 (倭) 王朝期 (二三〇年代前半～一四〇年代後半)【齡五十代後半で大倭纏向宮に遷座】

纏向入りして倭の女王ヒミコ(日繼の御子、日の巫女)に即位。亦の名は撞賢木巖之御魂天疎向津媛、天照大御神荒魂)に転身

5 女王退位後 笠縫邑(檜原神社の鎮座地)や伊勢五十鈴宮では、天照大御神

※笠縫邑では天叢雲剣で以て天照大神を祭祀。五十鈴宮では、天叢雲剣で天照大神、檜御柱で高皇產靈を祭祀

6 一四〇年代末、五十鈴宮で逝去 (享年八十余歳)→箸墓円形部(円壇→五段重ね円墳)に埋葬された

7 三〇四年二月二三日、鳥見山中の祭場(桜井茶臼山古墳)で、夫の御魂と共に皇祖天神に配された

※内宮祭神は天照大御神。荒祭宮祭神は天照坐皇大御神荒御魂とも天照大御神荒御魂とも。一説では瀬織津姫。

内宮別宮伊雜宮(天照大神の遙宮)祭神は、天照大御神御魂、相殿祭神は玉柱屋姫命。廣田神社(西宮市)祭

神は天照大御神荒御魂(撞賢木巖之御魂天疎向津媛、一説では瀬織津姫)。生田神社祭神は、稚日女神

邪馬台三国志 下

目次

- ◇倭国／倭奴国の國のかたち ◇中国神話と古代史
- ◇インド古代史 ◇太陽（日） 神と牛頭天王の源流
- 倭国の生い立ち**
- 天之国とオロチ巖之国王朝／太伯ら子孫と越オロチ族 ● 倭国王朝の建国
- 豊葦原中つ国と伊都国の王朝 ● 倭奴国王朝／安曇族の渡来
- 倭國大乱と邪馬台国 ◇南伝仏教の東アジア流入 ● 神国と常世づくりと伊奘諾
- ◇熊野権現 ● 豊受皇太神 ● 倭国大乱 ● 伊奘諾の南遷 ● 一人の天照大（御）神
- 日神の出現 ● 天石窟 ● オロチ退治 ● 天日槍襲来
- 東西の王朝**
- 天照大神、高千穂宮へ／天孫饒速日の天降り
- 葦原中つ国平定 ● 天孫瓊瓈杵の出現 ● 皇孫火瓊瓈杵の天降りと日隈（日前）
- 日神の畿内遷座 ● 天照大神（高皇產靈）の湖西高島宮と天成神道
- 倭の女王**
- 倭の女王ヒミコと纏向上之宮／皇孫火瓊瓈杵の日前国西都と天孫天火明の日高見国東都
- 皇子の交換 ● 女王の朝貢 ● 海幸彦と山幸彦 ● 内部抗争
- 火明饒速日（海幸彦）の天降り ● 女王の伊勢遷座
- 日本王朝と日前の対立**
- 女王トヨ ● 一都七道制 ● 天神火明饒速日
- 太子 磐余彦 ● 景行の熊襲征伐 ● 和王 磐余彦 ● 仲哀の熊襲征伐
- 天下は一つ、家は一つ（神武東征）**
- 東征出發 ● 筑紫国の奪還
- 新羅遠征 ● 吉備征伐／高島宮／出雲征伐 ● 生駒の敗北
- 熊野上陸／熊野権現の神倉山垂迹
- 日前宮の創祀／日本に迫る ● 日本の降伏
- 大和朝廷の成立**
- 檜原宮 ● 日本武尊の北伐 ● 大和朝廷のはじまり 1
- 大和朝廷のはじまり 2 ● 皇祖天神に奉る郊祭
- ◇伊勢神宮の祭祀変遷

倭の女王

●倭の女王ヒミコと纏向上之宮／皇孫火瓊瓈杵の日前国西都と天孫天火明の日高見国東都同じ二二〇年代前半、纏向宮づくりが進む中で、奈良盆地に住む人々は待ちきれなくなつて移住し始めた。そのため、唐古・鍵、大福（樺原市）などの邑々は、急に衰退したかのようになつた。大物主や大己貴も、早々と新都に移り住んだ。二人はこれを契機に、天火明を倭王に押し立てたい想いに駆られた。それには、天叢雲剣を手にして祭祀権を確保しておく必要があつた。

その最中に、天照大神が俄かに逝つてしまつた。享年七十余歳だつた。

即刻、これを伝える勅使が熊野にすつ飛んで行つた。日神は熊野有馬村の花窟（三重県熊野市）近くで夫の計報を耳にするや、急ぎ引き返して紀ノ川沿いの山道を一目散に駆け上つた。

その後の彼女は、舅や夫の大葬に忙殺されたが、一連の儀式を滞りなく済ませると、天照大神の地位を継ぐと同時に、邪馬台国と高天の双方から倭の女王ヒミコに共立された。

月日が経つて上之宮（巻向駅北、辻地区・巻野内）と呼ばれる宮殿が晴れて落成すると、素戔鳴は卿となつて兵主なる最高位に昇り、邪馬台国軍を一手に握つた。と同時に、親衛隊を率いて宮殿警護にあたつた。太夫となつた大己貴も、射楯の神として都周辺や市場近辺に数多の将兵を繰り出し、治安維持に目を光らせた。

これ以外にも、女王を守護する体制は都を幾重にも取り巻き、厳重を極めていた。ざつと見渡しあくまでも、都の北に大倭家、東と南に大神氏や三輪氏、金剛山東麓に味スキ高彦根、御所に八重事代主、丹波亀岡・山城、湖西北比叡連峰東麓に素戔鳴の孫大山呪、難波に住吉大神、摂津・東播に大山祇、紀伊に五十猛（天日槍）、湖西北良山系嶽山周辺・伊勢二見に猿田彦、丹後に天火明率いる海部家分家、尾張国真清田に天火明の児天香山率いる海部家本家というものものしさだつた。

〔大神（おおみわ）神社〕（奈良県桜井市三輪）、祭神は、大物主天神。

〔大和（おおやまと）神社〕（天理市）、中殿に大国御魂神、左殿に八千戈神、右殿に御歲神を祀る。

〔日吉（ひよし）大社 東本宮〕（滋賀県大津市坂本）、祭神は、大山咋神。

〔松尾（まつのお）神社〕（京都市西京区嵐山）、祭神は、大山咋神、中津島姫（市杵島姫）命。

〔三島鴨神社〕（大阪市高槻市）、祭神は、大山祇神、事代主神。

〔白髭（しらひげ）神社〕（滋賀県高島市）、祭神は、猿田彦命。

〔伊太祁曾（いたきそ）神社〕（和歌山市）、祭神は、五十猛命。かつては日前神宮の地に鎮座。

〔真清田（ますみだ）神社〕（愛知県一宮市真清田）、祭神は、天火明命。神紋は、竹の輪に九枚笹。

境内由緒に、「祭神天火明命は、天孫瓊瓈杵の御兄神に坐しまし国土開拓、産業守護の神として御神徳弥高く、尾張国はもとより中部日本今日の隆昌を御招来遊ばされた貴い神様」とあるそつな。

この時期つまり三世紀前半に、纏向に突如として巨大な都市が出現した。その大きさは巻向駅北を中心にして東西二キロメートル、南北一・五キロメートルに及び、唐古・鍵や吉野ケ里を凌いで邪馬台国時代の最大都市に発展していく。この都市が拡大する頃、纏向に最古の纏向石塚古墳が造られた。その後、南の箸中地区でも、矢塚古墳、勝山古墳、東田大塚古墳、ホケノ山古墳など纏向型と呼ばれる出現期大型前方後円墳が矢継ぎ早に築造された。

【纏向遺跡】

〔奈良県桜井市〕、三世紀に始まる遺跡で、ここから一万枚以上の檜矢板を打ち込んだ大溝、多量の土器が出た。その中には、南関東・東海・北陸・近江・出雲・西瀬戸内海沿岸の土器が一五〇～二〇〇%も占める。その半数近くが東海系の土器、ついで出雲系が多い。

箸墓古墳の北約一キロメートルから、ヒミコの宮殿と思しき三世紀前半の大型建物跡が出土し、近づから祭祀に用いられた二千個を超す桃の種・大量の土器、木製品が見つかった。

中国の神仙思想では、西王母の手にする桃の実は、不老長寿の叶う果実とされてきた。